

## 2020.08 Monthly Report



写真1 / 現川越市中央公民館が旧川越電気鉄道川越駅跡

## 埼玉県で最初に電化が始まった川越に遺る火力発電所跡 発電所跡横から出ていた旧川越電気鉄道の痕跡を行く !!

～近代電化遺産としての発電所跡&電車軌道跡～

### ☆埼玉で最初に実現、川越の電化史を訪ねる

本紙 3156号（7月22日発行）の編集部・プチ特集では「変わらないままに変える／変えないままに変わる小江戸川越が構築してきた強固で柔軟な在り方」と題し、埼玉県川越市の「重要伝統的建造物群」を中心に伝統的でありつつ、伝統を少しずつ破ってきた、モダンで重厚なまちづくりの一端をご紹介します。

本欄はその続きとして、川越市の「電化」に焦点を絞ったりポートをお届けしたい。

3156号の編集部・プチ特集では、川越市が「2年後の2022（令和4）年に市制施行100周年の節目を迎えること」、「川越市の市制施行は現在の県庁所在地・さいたま市の中核をなす旧浦和市や旧大宮市、さらに埼玉県最大の工業地帯だった川口市よりも先になされた



写真2 / 川越火力発電所跡（東京電力川越支社）は中央公民館隣

こと」、その理由として「川越市は江戸時代から近代にかけてずっと、埼玉県下で最も繁華な都市であり続けたこと」などを取り上げ、ご紹介した。

江戸時代から明治・大正・昭和前半期までの川越市は、いわば「埼玉県で最もホットな文化都市」として君臨していたわけだが、その事情は「電化」においても如実に表れていた。

いうまでもなく世界の都市の「電化」の始まりは、「電灯」の導入にあった。日本におけるそれは1882（明治15）年の銀座通りのアーク灯の設置とされる。しかし、実質的には1888（明治20）年、東京電燈（現東京電力）が日本橋茅場町に日本初の火力発電所を建設し、界隈に電力を供給するようになり、白熱灯による照明を実現したことにあるといえるだろう。

それから遅れること16年。1904（明治37）年に埼玉県で初の火力発電所が川越にできたことで、界隈への送配電が行われるようになり、川越では埼玉県下初の電灯（白熱灯）が灯るようになった。その際の電力契約者は431軒だったとされる。

そして実は、この火力発電所建設のそもそもの目的は、埼玉県下で初の電車ともなる、川越～大宮間（約13km）を結ぶ「川越電気鉄道」の動力エネルギー源としての電力を生み出すことにあった。

川越火力発電所が建設された前年の1903（明治36）年には東京で初の電車となる路面電車・東京電車鉄道